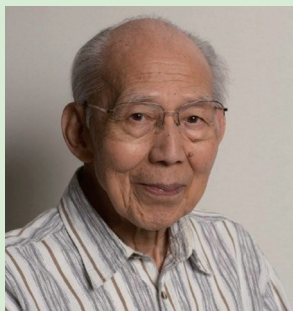


出版される私の本

「人間は素晴らしいもの、尊いもの」



サウンドヒーリング協会 会長
昭和大学名誉教授
中村泰治

間もなく出版される私の本の表題は「人間は素晴らしいもの、尊いもの」、副題は「響きあう宇宙と人間と細胞」です。私は若い頃、ヨガの修行をしましたが、その時宇宙の奥の奥からの力が人間の心を通して人間に強い影響を与える事を悟りました。その日以来、その宇宙の奥の奥からの光、力それは何なのか、そして人間はそれをどのように受け入れるのか、人間の体はどうなっているのか、それらについて考えて来ましたが、その結果得られたものを纏めやすく書いたのがこの本です。

本の内容は、序章「幽暗の世界」に続いて、第1章が「大宇宙」、第2章「小宇宙人間」、第3章「大宇宙と小宇宙人間のつながり」、次に「間奏曲」という章が入り、第4章は「ガイア(生きている地球)と人間の責任」、終章「太郎、桜子へ88歳の大伯父から」、です。中身を少し紹介しますと、第1章では、宇宙の始まりのインフレーション、ビッグバンから宇宙の創成。宇宙の全エネルギーの中で星や地球や人間など物質が占めるのは4%で、96%は未知のエネルギーあること。その未知のエネルギーの中身は、全宇宙にわたって一般物理学では考えられないような量子波動エネルギーの働きがあり、その奥にすべてが大調和という一貫した法則性が存在すること。

第1章では、この肉体にも宇宙未知のエネルギーが一体となって働いていること。人間の本来の本当の姿とは。第3章では、人間は宇宙と一つに繋がっており、本来は無限といえる能力可能性があるのでに現実はそのようではない。それは潜在意識の中に誤った意識、マイナスの想念が溜まっているから。それを取り除き人間本来の姿を現す為の方法。祈りの大切であること。音響の持つ不思議な力について。第4章では、ガイアを破壊してきたのは戦争と原子力。その素になっているのは物質人間の過剰な欲望と人間相互不信。日本は世界を平和にする先頭に立たなければならない。以上のようなことが書かれています。(四六版、約200頁、3月出版予定)

10th Holistic Cruise 2013とヒポクラテスHealth Institute病院 訪問の旅

サウンドヒーリング協会 Keiichirou Kita & niña

Holistic Cruise



▶ Cruise ship (左) ディズニーボート(右)

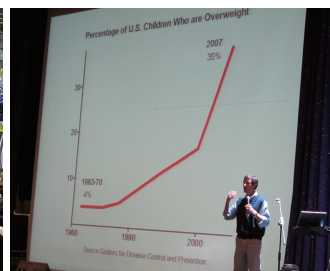
米国アリゾナにあるMind Body Medicine Centerのドナルド・ピーターズ博士とその病院でサウンドヒーリングを担当する鍼灸師のスナダ・ハレルさんの勧めにより米国で人気の高いホリスティック・クルーズ2013に参加してきました。

初めてのクルーズでしたが、お二人の熱心な参加へのアプローチの意味が後になってわかりました。Holistic Cruiseは医学、健康、食事などWell-Beingなライフスタイルに関連する専門家の講演を聞き、食事はすべてビーガン(マクロビ等)、運動、ヨガ、呼吸法などを体験する画期的な1週間のフロリダ発カリブ海クルーズです。米国では10年間、高い評価を得ている新しいスタイルのクルーズです。ピーターズ博士は「生活習慣病予防」、「体に備わった知性」、「自律神経と健康」など、様々なテーマで講演するクルーズのキーパーソンでした。

ピーターズ博士とスナダさんは日本からのサウンドヒーリングを新しい健康増進法としてこのクルーズの主催をしている責任者ジョン・ベルメさんに紹介する機会をつくろうと私たちに参加を呼び掛けていたのです。よい機会をつくってくれたものの、クルーズ中は忙しい業務でゆっくりお話しする時間がとれず、中盤になってやっと一緒に食事をするタイミングがとれました。2013年のクルーズ参加者は1400人を超え皆様Well-Beingなライフスタイルを



▶ 講演会場



▶ 講演



▶ ピーターズ博士たちと



▶ 食事



▶ 朝のエクササイズ

ヒポクラテスHealth Institute病院



▶ 代表のアンナ・クレメントさんと



▶ ヒポクラテス病院にて



▶ 病院入口



▶ 病院ランチ

学びたい意識の高い人たちはです。同時に自分のキャリアを紹介し講演者としてチャンスを狙っている先生方もおられました。それゆえ、ディナーの始めは何となくごちなく、ジョンさんはプレゼンテーションされると思っかあまり聞く耳をもたない感じでした。

そっけない空気を和らげようと思い、こちらの話はせずにむしろ聞いてみようと、このクルーズを始めたきっかけなど様々なことを聞き出すことから会話が弾んできました。そして最後に体の調子はどうかと伺うと、腰が痛く、仕事からくる疲れがとれないと話してくれました。チャンス到来と思い、明日私がサウンドヒーリングで腰をケアし、体内環境を整えてみましょうと話したところ、さっそく手応えがありました。

この体験がきっかけとなり、ジョンさんはサウンドヒーリングを他のスタッフにも体験させたいとHolistic Cruiseの担当者達を連れてくるようになりました。ピーターズ博士とスナダさんの好意を無駄にすることなく、次のステップとしてエビデンスや体験者の意見など音の効果に関する資料を日本から送付することになりました。

そして病院で治療のプログラムに取り入れているピーターズ博士のコメントも大きなポイントとなり、今年は喜田が日本から初めての講演者として選ばれサウンドヒーリングについて90分の講演をすることになりました。11th Holistic Cruise2014は日本のセラピスト達も一緒に参加することになり、カナダと米国のサウンドヒーリングセラピストたち国際チーム計9名で乗船し、サウンドヒーリングを担当します。2014年の参加予想者は1700人を超えるとか、私も皆も今一生懸命英語の猛勉強に励んでいます。サウンドヒーリングで心を平和に生きる新しいWell-Being Movementの活動はカリブ海でも始まりました。

2013年の下船後は乗船中に視察を勧められた、ヒポクラテスHealth Institute病院を訪ねました。この病院は薬を使用せず食事療法を中心にした治療を100年以上前から行っている歴史ある病院で、偶然にも米国のセラピスト・シャロンさんがサウンドヒーリングの導入を勧めていたのです。突然のアポイントでしたが、代表のアンさんは大歓迎して下さい、サウンドヒーリングの講義を急遽行うことになりました。おまけにニューヨークのゲイナー博士がこの1週間後に視察に来ることが分かり、偶然が織りなす、導かれたような訪問になりました。

Mind Body Medicine Center

▶ <http://healmindbody.com/>

Holistic Cruise

▶ <http://www.atasteofhealth.org/>

Hippocrates Health Institute

▶ <http://hippocratesinst.org/the-institute>